

学習の手引き



館林市立第二中学校

～ はじめに ～

★★★ 学校における基本的な考え方 ★★★ 授業と家庭学習で「学ぶ力」を！

小・中学校では、子どもたちが将来社会人として自立するための基礎となる「学ぶ力」を育てます。中学校生活で一番大切なことは、授業を大切にすることです。授業を大切にすると、必ず成績が伸びていきます。授業がよくわかるようになると、中学校生活もさらに楽しくなります。学校は、基礎学力を高めるための努力をしていますが、家庭との協力によって、その成果は何倍にも高めることができます。

「学ぶ力」とは、「なぜ?」「どうして?」「もっと知りたい!」という疑問や意欲をもちながら、知識を生かしたり、見通しをもって考えたりする力のことを言います。家庭学習の定着は、子どもたちの主体性や自立性を伸ばし、目標をもって人生を豊かにする力となり、将来への大きな財産となります。

日々の学習を充実させるために、「学習の手引き」を大いに活用していただきたいと思います。

学習の心構え9か条

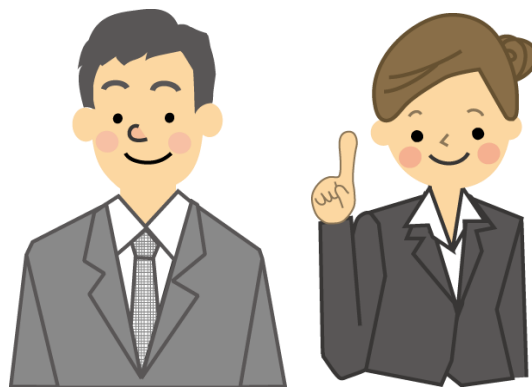
- その1 先生の話を目と耳で聴き、考え、行動する
- その2 忘れ物をしない
- その3 チャイム着席をし、授業前に準備を済ませておく
- その4 宿題は自宅で済ませてくる
- その5 板書事項をノートにまとめる
- その6 板書事項には、必要に応じて線を引いたりメモを書き加えたりする
- その7 積極的に発表するとともに、友達の意見をよく聴く
- その8 わからないことは、必ず質問をする
- その9 私語や周りに迷惑をかける行動はしない



ご家庭を「学び」の環境に！

進んで学ぼうとする力は、子どもたちが一番安心できる家庭、安定した生活リズムの中で、毎日学習を積み重ねていくことで育っていきます。また、子どもたちは家族に認められたり、励まされたりすることで「がんばってよかった！」という充足感や「見守られている」という安心感を得て、自分らしさや努力することに自信がもてるようになります。

家庭と学校とが協力し合うことで、子どもの「学ぶ力」は大きく育っていきます。



ご家庭に心がけて欲しいこと

- 生活のリズムを整え、決まった場所と時間で

学習に集中できる環境を作る

- 努力を認め、励まし、対話のある

温かいふれあいをもつ

学校が心がけること

- 基礎学力をつけ、学び方を教え、

主体性を育てる学習指導を行う

- 子どものよさを生かした

家庭学習の提案を行う

家庭学習とは？

家庭学習とは、宿題だけでなく自主学習も含まれます。

- ☆ 宿題：必ずしなければならない課題です。各教科で出題されます。宿題に取り組むことで、基礎学力を身に付けていきます。
- ☆ 自主学習：自分で課題を見付け、追究する力を育てます。思考力・表現力など、社会人として必要な力が身に付きます。
【例】 国語…漢字練習
数学…計算練習、授業の復習、テスト直し
英語…単語練習、基本文型、テスト直し
社会・理科…基礎的な事項等を見て、音読して、書いて覚える。
(人名、地名、年号、公式、定理、元素記号、化学式など)

家庭学習で身に付く力

家庭学習は、基礎学力が確実に身に付くだけでなく、「考える力」や「表現する力」を伸ばします。また、「意欲」「自分をコントロールする力」「生活リズムを整える力」「自己決定力」「集中力」「課題発見力」「課題解決力」「自尊感情」となって、自分自身を高めます。これらの力は、毎日コツコツと繰り返し努力していくことで身に付きます。



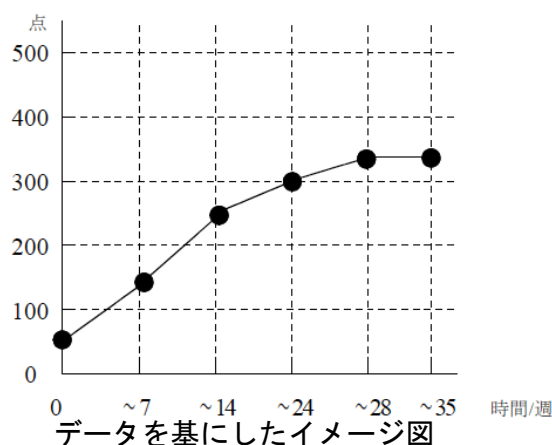
家庭学習5か条

- ① 毎日必ず学習する（時間ややることを決める）
- ② テレビ、携帯電話、携帯ゲーム、音楽プレイヤー等の電源を切る
- ③ 机の上が整理整頓された状態で行う
- ④ 学校の宿題、予習・復習を最初に行う
- ⑤ 勉強が終わったら、次の日の準備をする

効果を生む最低時間

1日2時間、つまり一週間で14時間勉強すると、テストの平均点が、まったく勉強していない人に比べて、5教科で100~200点近く上がるといわれています。これは、ある一定時間数だけ勉強すると、家庭学習の効果が急激に表れることを意味しています。逆に、ある一定時間に達していなければ、効果は出にくいです。

この時間は「効果を生む最低時間」と名付けられています。この「効果を生む最低時間」を基に、平日2時間、テスト前4時間を目標に学習をするとよいでしょう。



(引用：「家庭学習時の時間の推移と成績の相関図」)

奈良市立若草中学校 (Benesse view21 中学校版 2009年 Vol.2 掲載)



充実した家庭学習に向けて

計画的・継続的な学びを進めよう！



学習時間のめやす

100～150分



ポイント1

宿題を復習の勉強時間へと広げる！

毎日、学校から出される宿題からとりかかりましょう。そのとき、ただ形式的に早く済ませようとするのではなく、その日の授業で習った内容を思い出したり、教科書やノートなどを見返したりすることで、宿題を復習の勉強時間に広げていくことができます。

ポイント2

長時間費やしていることを勉強にチェンジ！

「テレビ」「ゲーム」「インターネット」「スマートフォン」「マンガ」など、たくさんの誘惑があります。しかし、一定期間それらをやめて、その時間を勉強に当ててみましょう。この機会に、思い切って習慣を変えてみるのが大切です。

ポイント3

机に向かったらすぐ勉強を！

机に向かってはいても、マンガを読んだり、うとうとしたりすると学習効果は上がりません。机に向かったらすぐに勉強を始め、適度な休息を取りながら集中して学習に取り組みましょう。三日坊主にならず、毎日継続する心の強さも必要です。

自主学習ノート

「家庭学習の充実を！」と一言と言っても、何から手をつけていいのかわからないこともたくさんあると思います。基本的なことをきちんと押さえ、さらに充実した家庭学習を行うために、自主学習ノートの見直しを行いましょう。

自主学習ノートの使い方3か条

- その1 日付、学習時間を必ず記入する
- その2 1ページをむだなく使う
- その3 毎日、学年×1ページ以上をめやすにする

ただ時間を費やすだけ、ペンを減らすだけ、紙のむだ遣いでは、学習効果は得られません。手をあげれば抜くほど、必ず苦しくなります。「あのとき、もっと勉強していれば…」「まじめにがんばっていれば…」と、後悔しないようにしましょう。

「学習の手引き」を活用しよう！

中学校3年間で学習する内容は、非常に豊富で多岐にわたります。ですから、5教科のすべてを満遍なくマスターするのは決して容易なことではありません。日々の学習をおろそかにするとすぐにわからなくなってしまいます。5教科には、それぞれに特色があります。この特色をよく理解し、特色に応じた勉強の仕方を工夫することが何よりも大切です。この「学習の手引き」には、それぞれの教科の授業を受ける心構えや家庭学習の仕方など、どんな勉強の仕方をすれば学習内容が身に付くか、ということが書いてあります。皆さんが、学習を進めていくうちに、これらの疑問にぶつかったら、この「学習の手引き」を読んでください。そして、早く自分にあった勉強の方法を見つけてほしいと思います。



国語科

国語科の学習の手引き

はじめに

中学校の国語で新しく学習する文章は、古文、漢詩、漢文くらいで、ほとんどが小学校での学習を基礎にしている。しかし、単なる延長ではなく、内容も多くなっている。内容を大きく分けると、次のようになる。

- ア 話すこと・聞くこと—朗読、話すこと、話し合いなど
- イ 書くこと—考えを文章にまとめること、新聞や論文形式でまとめること、作文など
- ウ 読むこと—文章の読み取り、詩の鑑賞、読書など
- エ 伝統的な言語と国語の特質—古文、漢文・発音・発声、語句、漢字、書写など

勉強する内容は、小学校とあまりかわらないと受けとめる人もいると思う。しかし、国語は学習内容がとても奥深く、短期間に効果をあげることが難しい教科なので、「自分で考え、勉強すること」が重要になる。

1 授業を受ける心構え

(1) 授業に意欲的に挑む

授業で指示された課題「読むこと」でも「書くこと」でも、**進んで行く気持ち**をもって取り組もう。



(2) 話をよく聞き、しっかり理解する

説明をしている先生の話はもちろん、質問に答える友達の話も“**静かに集中して聞く**”ようにしましょう。よく聞いていてもわからなかったら、遠慮なく質問して“**その場で理解**”するようにしよう。

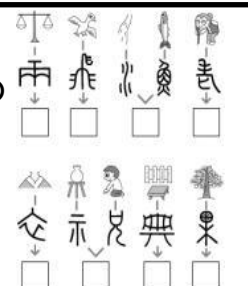
(3) 自分の考えをもち、それを恥ずかしながら表現していく

目の前にケーキを差し出されたらどう思うか。「おいしそう。」「食べたい!」「食べていいの?」「甘いのだめなんだ…。」「いくらなんだろう。」など、人それぞれだと思ふ。そういう思い、感じたことが“**自分の考え**”である。全く何も感じない、思わない、無意識であるということはありません。どんなささいなことでも、それを書いたり、話したりすることが**力をつける大事な学習**である。



(4) 語彙力（ごいりよく＝言葉の力）を高めていく

読んだ本の中から表現の仕方をまねて作文を作ったり、テレビ番組や自分の好きな歌手の歌から、新しい言葉を覚えて使ったりすることも大事なことである。**学ぶのは学校の授業だけではない**。自分の身の回りからたくさんの言葉を知って、自分のものにしていこう。



2 ノートの使い方

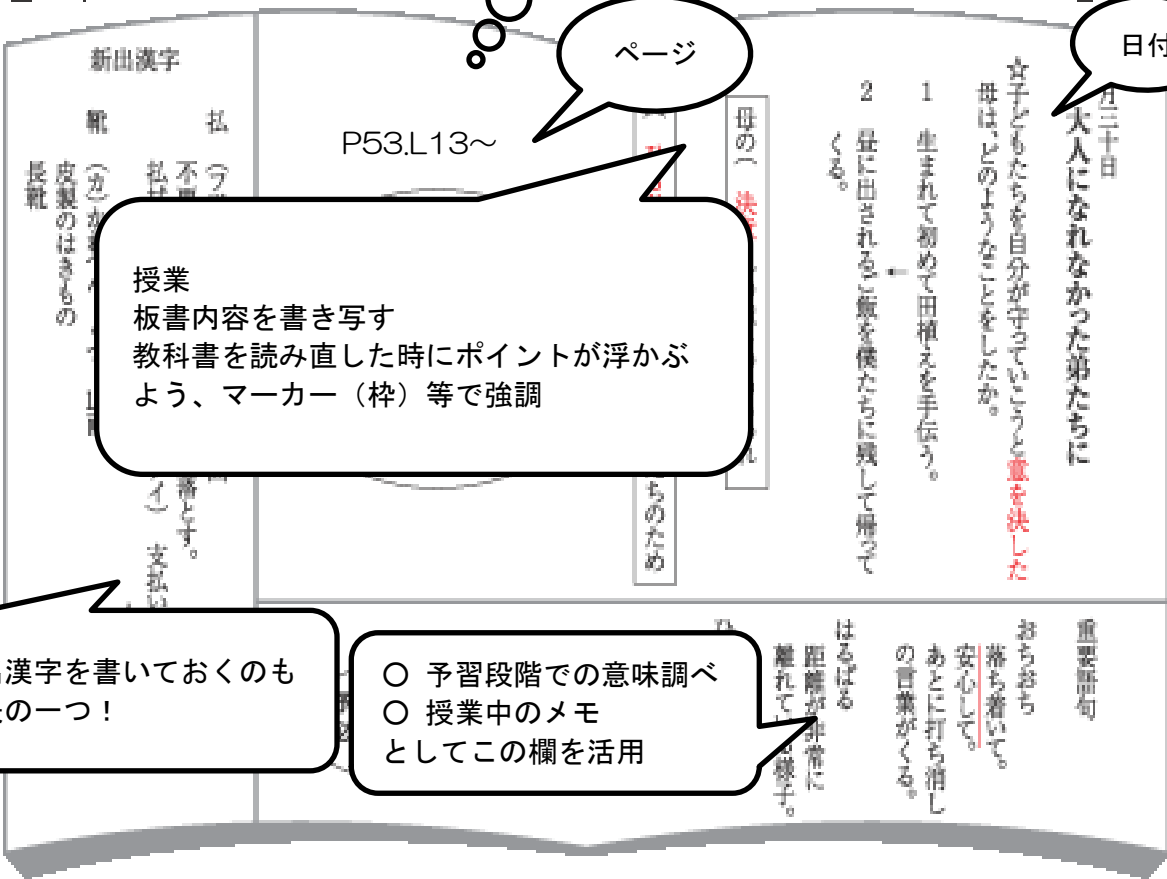
授業用のノートとして、板書用ノートと漢字ノートの2冊用意しよう。授業用ノートは2段に分けておく。上段は授業用、下段は先生が話したことや、大事なことをメモするようにしよう。自分で工夫して、教科書とノートに記号などを付けるようにすると復習のときや、テストのときに便利である。

【ノートのとり方の例】

- ①学習した日付けを書いておく。
- ②教科書のページを書いておく。
- ③項目ごとに見出しをつけておく。
- ④重要なところは色付きのペンでマークをする。
- ⑤各段落の要点は、わくで囲んでおくなど、工夫してノートを使う。

工夫したきれいなノートを作ることを心がけることで、頭の中も整理され、ポイントがわかってくるよ！

左ページ



右ページ

日付

ページ

P53.L13~

授業
板書内容を書き写す
教科書を読み直した時にポイントが浮かぶ
よう、マーカー（枠）等で強調

新出漢字を書いておくのも
工夫の一つ！

- 予習段階での意味調べ
- 授業中のメモ
としてこの欄を活用

1 生まれて初めて田植えを手伝う。
2 昼に出されるご飯を僕たちに残して帰って
くる。

女子どもたちを自分が守っていこうと重を決した
母は、レのようなことをしたか。

百三十日
大人になれなかった弟たちに

重要語句
おちおち
落ち着いて。
安心して。
あとに打ち消し
の言葉がくる。

はるばる
距離が非常に
離れて
る様子。

3 家庭学習の仕方

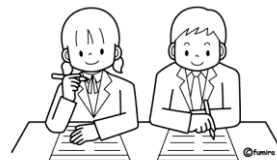
(1) 予習の仕方 (最低限これはやって授業に臨む。)

① 教科書を読む

- 読めない漢字、意味のわからない言葉に線を引く。
- 大事だと思う文(部分)に線を引く。

② 教科書を読みこむ

- 読めなかった漢字、意味のわからなかった言葉を辞書で調べる。



(2) 復習の仕方

① 『国語ワーク』をやる

- その日、授業で学習したところをその日のうちにやるのが効果的。
- 繰り返しできるようにするため、『国語ワーク』専用のノートを用意して取り組む。
※ 必ず答え合わせをし、間違いは赤で直すことが大切!



② 『漢字ワーク』をやる

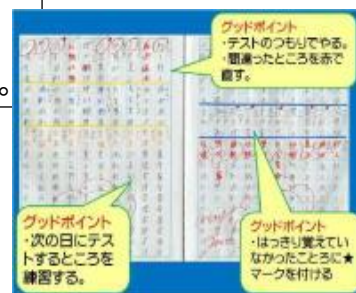
- 二中では、どの学年も『漢字のワーク』に取り組んでいる。大切なのはやり方。
- これも専用の漢字ノートを用意して書けるようになるまで取り組むのがよい。

① まず、『漢字のワーク』の問題の解答を専用のノートに書く。

② 次に、まちがった問題だけ、また解答を専用のノートに書く。

それでもまちがった漢字は、専用のノートに自信がつくまで練習。

- ※ 上を全問正解になるまで繰り返す。ポイントは答え合わせをしっかりとすること。解答をよく見て一点一画をおろそかにしないで丸付けをすることが大切!



4 その他のアドバイス(おすすめの国語学習法)

- 新聞コラムのまとめ…内容を200字程度にまとめる。**要約力、読解力UP!**
- 三行日記…その日の出来事などについて三行にまとめてみる。**記述力の向上!**
- 短文作り…習った言葉や調べた言葉を使って短い文を作る。**語力が豊かに!**
- 問題集…多くの問題に取り組むことで応用力がつく。**解き方のコツをつかむ!**
- 板書の書き写し…家でもう一度、別のノートに書き写す。**授業が記憶に残る!**

～ 入試対策ここがポイント ～

【定期テストで平均点を下回る生徒】

薄い問題集を徹底的に何度も使おう！

- ※ 答えは必ずノートに書いていく。
- 1 まず一通り最後まで通してやってみる。
- 2 次に答え合わせをして、まちがえたところをチェックする。
- 3 まちがえた問題を解く。
- 4 やり直した問題の答え合わせをする。
- 5 またまちがえた問題チェックする。
- ※ 1～5をくりかえしてまちがいがなくなるまで徹底的に一冊の問題集に取り組む。
- ※ 詳しい解答の付いた問題集を選ぶのがとても大切。



【定期テストで平均点ぐらいの生徒】

要約力を身に付けよう！

- ※ 入試傾向としての文章の内容をまとめる力（要約力）のウェイトが高いです。
- 1 文章を通読する。（文章は教科書でも新聞のコラムでもよい）
- 2 形式段落に番号を打つ。
- 3 もう一度文章を通読する。
- 4 それぞれの段落で大切だと思う言葉を○で囲む。
- 5 ○で囲んだ言葉の中で、「これははずせない」という言葉を選ぶ。
- ※ 「これははずせない」というのは、例えば何度も出てくる言葉
- 6 その言葉を使って二十字以内の要約文を作る。
- ※ 4～6をすべての形式段落について行う。
- ※ 2ヶ月ぐらい続けられれば、大きな効果が期待できる。



【定期テストで平均点を上回る生徒】

思考力を高めよう！

- ※ 上記の「要約力を身に付けよう！」の1～6を一通りやった後、
- 1 自分はその文章についてどのように思うのかを200字程度にまとめる。
- ※ 字数を意識するため、マス目のある用紙を使う。
- 2 200字を2～3段構成で書く。（序論→本論）（序論→本論→結論）
- 3 一文は20～30字以内。
- 4 字数が少ないので常体（だ・である調）を用いる。
- 5 一般的で単純な感情表現（うれしい、悲しい、楽しい、すごい）等は避ける。別冊「君も表現名人になろう」を活用する。
- ※ 先生に定期的に添削してもらえば、これ以上の学習効果はない！



社 会 科

社会科の学習の手引き

はじめに

【小学校との違い】



① 3つの分野に分かれている

地理・歴史・公民に分かれ、複数を並行して進めることになる。

1・2年次には地理・歴史、3年次には歴史・公民を学ぶ。

② 教科書で使われる言葉がとても難しくなる

③ 覚える内容が大幅に増える

小学校と比べ、覚える量が大幅に増える。これが社会科が苦手になる原因にもなっている。

④ 事象について多面的・多角的に学ぶ

例えば歴史では、小学校では各時代の特徴などを人物に焦点を当て学習をした。しかし、中学校では各時代の事象間の関係性やつながり、1つの事象がもつ様々な意味を多面的・多角的に学ぶことなど、事象を中心に学習することになる。

○ 「なぜあの出来事は起きたのか」「あの出来事によって、どんな変化がおきたのか」など、**推理することが大切。**

⑤ 各地域・時代などを大観する

各地域や歴史の特色を学び、説明できるようにする。

1 授業を受ける心構え

(1) 教科書などの配布物をしっかりと管理する

教科書や資料集、地図帳、ワークなど社会科は使用するものが非常に多い。また地理と歴史は並行して行うので、「明日から歴史をもってきて」ということも。しっかりと整理しておき、すぐに用意ができるようにしておくこと。

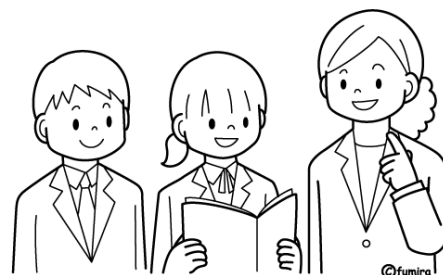


(2) 予習・復習をしっかりと！！

覚える内容がとにかく多く、いきなり知らない言葉が出てくることもある。教科書の太字の確認などの予習をすることで、授業についてこられるようにする。また復習をすることで、学んだことをしっかりと整理し、他の単元と混同しないようにする。前回学んだことだけではなく、過去に学んだことを覚えているか自分でチェックすることも大切。

(3) 先生の話や友だちの発表をよく聞く

- 先生の説明をよく聞き、要点を聞きのがさない。
⇒ どれを優先して覚えるべきか判断しやすくなる。
⇒ 学習内容の理解が深まり、知識の定着が図れる。
- 友だちの発表をよく聞き、自分の考えと比べる。
⇒ 多面的・多角的なものの見方を養える。

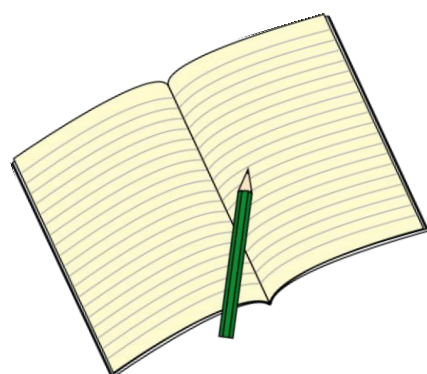


(4) すすんで発表する

- 授業中は積極的に挙手をし、発表できるようにする。
- 自分の考えをまとめて、分かりやすく説明できるようにする。
⇒ アウトプットすることで、長く覚えていられる(長期記憶)＝復習の時間が減る!

(5) 色ペンを用意する

- 5色ほど筆箱に入っていると便利。



2 ノート等の使い方

(1) ノートの使い方

- 見にくいノートは何が大切か分からなくなってしまう。色を使い分けたりして見やすさを意識すること。
⇒ 社会科にとって重要な復習に便利。
- 授業で使ったプリント類は、ファイルに保存する。

(2) 教科書の活用

- 社会科の教科書に使われている言葉は難しいものが多い。そのために教科書が読めないということも多くあるので、難しい言葉は読んで意味が分かるようにチェックをし、辞書で調べる。
- 太字で書かれている基本的事項や重要語句をしっかり理解する。
- 図や表がどういったことを表しているか、重要語句などと結びつけて考える。

(3) ワークの使い方

- 復習に使うなど計画的に進めること。
- 覚えにくかったり、間違ったりした問題はすらすらと答えられるまで何回も確認する。

3 家庭学習の仕方

～ 日常生活の中で ～

- 社会科の内容はテレビや映画、漫画、小説など身近にあふれている。まずは社会科に興味をもとう。

【復習の仕方】

- ① その日学んだことをしっかりと確認する。教科書やノート、ワークなどで行う。
- ② 繰り返し

1回やって完璧に覚えられる人間は少ない。「忘れてしまうのが普通」と自覚した上で、復習に取り組むこと。人によって覚えやすい語句は異なる。自分が何を覚えやすく、何が忘れやすいのか明らかにできれば、復習の時間も効率的に行える。授業はじめに行われる小テストは同じ問題がくり返し出されるので、まずはこの小テストをくり返し頑張ろう。

- ③ 精選

とにかく覚える量が多い。覚えるのが苦手な人は、「何が大事か」教科書やノートなどの比較から考え、「大事だと思うこと」をしっかりと覚えることからまずは始める。

～ 入試対策ここがポイント ～

- 基本的な重要語句は絶対に覚える。
たくさん覚えることが多い社会科だが、入試では意外と基本的な問題も多い。

〈例1〉□にあてはまる語句を答えよ。

□時代
稲作が行われるようになると、むらの
おこり、やがて、小さな国々ができる
には、邪馬台国は、30余りの国を従えて

〈例2〉この人物が来日した目的を簡潔に書きましょう。



簡単な問題は確実に解けるようにする。
そのためには……

問題文をよく読む！

- 意外と算数の力も必要
 - ・ 時差の問題や資料から読み取る問題で割合を求めるなど、実は算数の力も必要になる。小5程度のもので、苦手な人は確認しておくこと。
- 記述に慣れる
 - 変化の理由を説明したり、特徴を説明したりといった問題が近年多くなっている。1年生のうちから書くことになれよう。語尾にも注意（～だから にするなど）
- 群馬県に関連した内容の確認
 - 群馬県の内容もです。過去問やニュースなどで確認しましょう。
 - * インターネットで **東京新聞 入試問題** を検索すると、過去問題が出てきます。

【社会科が苦手な人は…】

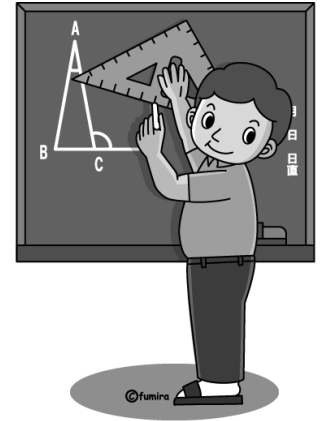
- 各単元の重要語句がまとまっているページを繰り返し行い、しっかり理解する。
⇒ 単元テストの復習を中心に行うと量としても負担が少ない。一問一答の活用。
- 疑問に思ったことは先生に積極的に質問しよう。

数 学 科

数学科の学習の手引き

1 中学校で学ぶ数学

基本的には小学校で学習したことをもとに内容を深めていきます。算数では、具体的なことがらに対して、考えたり計算したりすることが多くありましたが、数学ではそれらをもとに、筋道を立てて考えながら問題を解決する学習を行います。



2 数学学習の心構え

○ 問題練習を欠かさない

⇒ 問題練習は数学の力をつけるための一番の近道です。様々なタイプの問題に触れることが重要です。

○ 解答の途中経過もきちんと書く

⇒ 問題を解くために、自分が何の知識を使い、どのような解き方をしたのかをきちんと書き残すことが重要です。ただ答えが求められるだけでなく、人に説明できるように書くことも大切です。また、それによりどのように間違えたのかをふり返って確認することができるので、さらに力がついていきます。

○ 「わからないこと」を「わからないまま」にしない

⇒ 数学は積み上げの教科です。学習した事柄をもとにして、次の学習が行われます。わからないまま先に進むと、問題を解決する際に考えが止まってしまいます。一つずつしっかりと理解しながら先に進むことが大切です。

3 ノートの使い方

○ 説明を聴くとき、ノートを書くときの区別をしっかりとつける

⇒ 「ながら勉強」が最大の天敵です。聞きながら、書きながらでは確実な理解につながりません。先生の話「聴く」、ノート「書く」と区別させましょう。

○ 板書はできるだけ速く書く

⇒ 話を聴く時間とのメリハリをつけることが大切です。話の内容から重要なポイントを見つけ、気になることはメモをとっておき、あとでまとめることも大切です。

○ 色は最低限で活用する

⇒ カラフルな色づかいは、一見良いノートのように見えますが、うまくまとめられておらず、重要なポイントがわかりません。また、板書を写すときにも時間がかかってしまいます。赤と青の二色など、自分で使うポイントを決めて書くと効果的に使うことができます。



4 家庭学習の仕方

復習を制する者は、数学を制す！

授業を聴いて、ノートを書いただけでは数学の力は絶対に身につけません。「心構え」で書いたように、どれだけ様々なタイプの問題に触れ、どれだけたくさん問題を解いたかが重要になります。

心得 1 授業中に解いた問題は必ず家でやり直す

⇒ 授業で解いた問題をわかったつもりでいませんか？もう一度解き、解けたならば、それは自分の力になっています。

心得 2 宿題を最大限に活用する

⇒ 宿題はその日の学習のまとめです。解答を当てにせず、必ず自分の力で解いてください。大切なのは「終わらせること」ではなく「考えること」です。途中の考え方や途中計算を大切にしましょう。

心得 3 自主学習に取り組む

⇒ 問題は何度解いても構いません。与えられた問題だけでなく、自主的に問題練習を行うことで、基本問題を解く力を身に付けられます。基礎・基本が身に付けられたら、応用問題に挑戦して自分の数学力を高めましょう。



～ 自主学習 これだけは！ ～

ポイント 1 教科書問題に挑戦

教科書に書かれている例題や基本問題を解きましょう。授業ノートにプラスして、自主学習ノートに行うことで、2回学習することになります。

ポイント 2 問題集に挑戦

問題集の問題を自主学習ノートに書いて練習しましょう。1度や2度で終わらせるのではなく、定期テスト前までに5回以上解くと自分のものになっているはずですよ。

ポイント 3 間違えた問題に挑戦

学習が進んできたならば、学習してきた問題の中で間違えた問題を中心に練習を行ってください。同じ間違いをしないために、なぜ間違えたのかを確認しながら練習しましょう。

ポイント 4 応用問題に挑戦

基礎的な問題が解けるようになったならば、応用問題に進みましょう。数学は基礎・基本ができていれば、あとはそれを活用していきます。わからない問題は解説を見て考え、それでも理解が難しい場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。「わかった！」「できた！」が一番の喜びです。



理科

理科の学習の手引き

はじめに

【小学校との違い】

- ① 2つの分野に分かれている
物質とエネルギーを主な内容とする第1分野と、生物とそれを取りまく自然を中心とする第2分野に分かれている。
- ② 大きなまとまりになっている
自然を総合的に見てみようとするために、各分野内で同じ内容のものはひとまとめにして学習する。
- ③ 観察・実験が多くなる
授業の内容を、観察・実験によって確かめる。
- ④ 法則・原理がたくさん出てくる
観察・実験の結果から、法則や原理を見つけ出したり、それらの法則を他のものにあてはめたりして考える。



1 授業を受ける心構え

(1) 観察・実験にはすすんで取り組む

- ① 観察・実験を行う前に、教科書をきちんと読み、ねらいや方法を理解してから取り組む。
- ② 班の全員で役割を分担し、協力して安全に手際よく取り組めるようにする。
- ③ 細かい変化も見のがさないように集中して行い、観察・実験結果はしっかり記録する。
- ④ 考察をねらいに照らし合わせ、自分で考え、自分の言葉でまとめる。
- ⑤ 自分の予想と比べてみて、違っていたところがあれば、その理由も考える。
⇒ 事実にもとづいて推論したり、筋道を立てて考えたりできる。

(2) 先生の話や友だちの発表をよく聞く

- 先生の説明をよく聞き、要点を聞きのがさない。
⇒ 観察・実験の基本操作、注意事項等がしっかり身に付く。
⇒ 学習内容の理解が深まり、知識の定着が図れる。
- 友だちの発表をよく聞き、自分の考えと比べる。



(3) すずんで発表する

- 授業中は積極的に挙手をし、発表できるようにする。
- 自分の考えをまとめて、わかりやすく説明できるようにする。

(4) 疑問の解決に努める

- 先生に質問したり、友だちどうして考えたりする。
- 観察・実験を通して、または教科書や資料集等を活用して、解決する。

2 ノート等の使い方

(1) ノートの使い方

- 丁寧に書く。新しい単元はページを変える。
⇒ あとで読み直したとき、授業が頭に浮かぶようなノートをつくろう！
- 横線のあるもの（幅広）を使い、あまりつめて書かない。
⇒ 別解や用語の説明などを余白に書き込み、メモをとって「自分のノート」を作成する。
- 板書は、しっかり写し、重要ポイントや誤りやすいところは、色ペンで囲ったり、下線を引いたりして目立たせる。
⇒ テスト前に能率的な勉強ができる。
- 授業で使ったプリント類は、ノートに貼る。

(2) 教科書の活用

- 太字で書かれている基本的事項や重要語句をしっかりと理解する。
- 図や表は、内容を一目でわかるようにまとめたものなのでしっかりと確認する。
⇒ グラフは、関係をつかんだり、比較したりするのに役立てよう。
- 「問いの問題」や「章末問題」を解いたり、章末の要点整理を利用したりする。

(3) ワークの使い方

- 提出期限を守り、計画的に進める。⇒ 学習した内容は、その日のうちに確認。
- 間違った問題は、チェックしておき、2回以上解く。

3 家庭学習の仕方

～ 日常生活の中で ～

- 身近な自然現象や生物などに、常に目を向け、興味をもって観察したり調べたりしよう。
- 本・新聞・テレビなどの科学的なニュース等に関心をもとう。

※ **理科は、復習の大切な教科！！**

【復習の仕方】

- 学習した内容は、その日のうちに確認する。
 - ・ 教科書・ノートを開き、今日学習した内容を振り返る。
 - ・ ワークを利用し、授業で学習した内容を確認する。
 - ※ 教科書・ノートを見直しても分からない問題は、翌日先生に質問する。
 - ・ 復習をされていて大切だと思ったことは、授業のノートに付け加える。
⇒ 絵や色などを工夫すると授業のノートがオリジナルの参考書になる。
- 大切な用語を覚える。
(教科書に太字で書いてある言葉はしっかりと覚え、自分で説明できるようにする。)
 - ・ 教科書やノートを見直し、大切な用語を確認し覚える。
⇒ 家庭学習用のノートを用意し、書き出してまとめてもよい。



【定期テスト2週間前】

- 教科書・ノート・ワーク・プリントで復習する。
 - ・ 教科書…今まで学習した内容を振り返り、大切な用語を覚えているか確認する。
 - ・ ワーク・プリント…間違えた問題をもう一度解く。
- 繰り返し問題を解く。
 - ・ 理解が不十分な内容は、特に繰り返し学習する。

4 その他のアドバイス

- 自由研究に進んで取り組む。(思考力・表現力のアップを目指す)
 - ・ 普段はなかなかできない自由研究に長期休業中に取り組もう。日常生活の中には不思議なことがたくさんある。その一つをテーマとし、仮説を立て、実験を計画し、そのなぞを解明していこう。仮説と違った場合には、なぜ違う結果が出たのか考えよう。
- 学習した理科の内容が、実生活とどのようななかかわりがあるか考えてみよう。

- ◎ カイロはなぜあたたかくなるのだろうか。
- ◎ ホットケーキはなぜふくらむのだろうか。
- ◎ 冬、ガラスがくもるのはなぜだろうか。

～ 入試対策ここがポイント ～

- 教科書の基本事項をまとめたノートをつくる。
 - ・ 基礎的な用語や、計算の公式などを、色を使いながらノートにまとめる。
 - 理科では実験の方法や結果、そこから導き出せる規則性などを理解することが大切。実験内容もしっかりまとめていく。自分専用の参考書をつくるような感じでまとめられると良い。
- 重要語句を覚える。
 - ・ 教科書の内容すべてを覚える必要はないが、太字になっている語句は意味や関連する語句まで含め覚える。
- 計算問題に慣れる。
 - ・ 理科で出てくる計算は、公式を覚えたり、単位の換算さえしっかり出来ればほとんど小学校の算数レベルで解ける。理科の計算が苦手な人は、とにかく問題慣れすることが大切。
- グラフや作図に慣れる。
 - ・ 作図は、凸レンズによってできる実像や虚像の作図や力の矢印、電気回路図などのパターンは決まっている。一度慣れてしまえば、難しいものはない。



～ 問題集等の選び方・進め方 ～

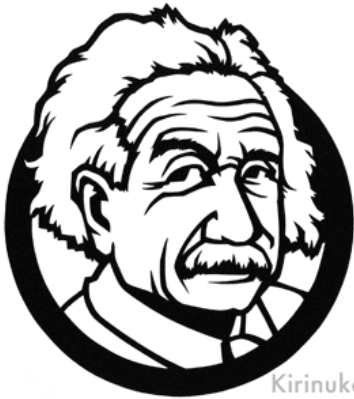
(1) 選び方

- 分野ごと、単元ごとに重要語句がまとまっているページがあるものがよい。自分のノート作りの参考にもなる。
- 問題集は1冊あれば十分。

(2) 進め方

1冊の問題集を、3回解くようにする。

- ① 最初は、問題集に直接答えを書き込まず、専用のノートをつくり、そちらに解く。
- ② 2回目は、わからなかった問題を中心に、ノートに解く。
- ③ 3回目は、直接問題集に書き込み、すべて解いてみる。



【理科が苦手な人は…】

- まず各単元の重要語句がまとまっているページを繰り返し行い、しっかり理解する。
- 比較的自分が得意な分野から学習を始める。
- すべて自分だけで考えようとせず、わからないところは先生に質問をする。

英語科

英語科の学習の手引き

小学校の英語学習ではゲームや歌などを多く取り入れた、聞いたり、話したりが中心でした。中学校では「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」をバランス良く学習しなくてはなりません。

英語学習の目標

英語を使って

- ☆ 会話ができるようになる（聞くこと、話すこと）
- ☆ 自分の伝えたいことを表現できるようになる（話すこと、書くこと）
- ☆ 書いてある英語（読み物、手紙、掲示物、ホームページなど）の内容を理解できるようになる（読むこと）

目標達成のためのポイント

1 音とつづりの関係を意識しながら単語を覚えていこう

まずアルファベットそして単語と、英語の勉強は進んでいきます。授業中はカード見たりALTの先生の口の動きを見たりしながら、アルファベットや単語の練習をします。その際、音とつづりの規則があるので、それを意識しながら大きな声で発音するように心がけましょう。また書く練習をする時も、小さく声を出しながら、あるいは心の中で発音しながら、アルファベットや単語の練習をしましょう。

2 英語の文法の規則を身に付けるためには、授業に集中しよう

毎時間基本文と呼ばれる大切な文を学習することになります。その文についての説明をしっかりと聞いて必ず理解しましょう。先生の指示に従ってノートに書き、家でもたくさん読んだり書いたりして覚えてしまいましょう。

3 コミュニケーション活動に意欲的に取り組もう

1、2で学んだ英語を道具として実際に使って、コミュニケーション活動をしていくことが、英語の最も大切で、そして楽しいところです。恥ずかしがらずにいろいろな場面で意欲的に取り組みましょう。以下のようなコミュニケーション活動を行います。

- ★ ペア活動…一番小さな単位の活動ですが、隣同士・自由に動いて多くの人と練習・座席をローテーションして練習などいろいろなパターンがあります。視線を合わせて笑顔でできると良いですね。
- ★ グループ活動…グループで協力し合って会話練習したり、書いたものを見せ合ったり、学年が進むにつれていろいろな活動をします。わからないことは教え合うということも大切です。



授業中の大原則

発言、練習は
大きな声で

間違いを恐れない

間違いを笑わない

授業中ではどうしても書くこと、読むことの時間が十分とれません。英語では復習が必須です。そこで学校で学習した単語や英文を書いたり、教科書の英文を読んだりする復習の時間を家で作るよう心がけましょう。

ノートの使い方

(1) 授業ノート (A ノート)

- 教科書の何ページかをきちんと書き、学習する日付を英語で書く。
- どのページに書くかは、あらかじめ、先生より指定がある。

<p>p. 46 September 10th Unit 5-2 ①単語調べ</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>単語</th> <th>品詞</th> <th>意味</th> <th>使い方の注意など</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>world</td> <td>名</td> <td>世界</td> <td></td> </tr> <tr> <td>so</td> <td>接</td> <td>それで、 だから</td> <td></td> </tr> <tr> <td>CD(s)</td> <td>名</td> <td>コンパクトディスク</td> <td></td> </tr> <tr> <td>lot</td> <td>名</td> <td>たくさん</td> <td>a lot of ~</td> </tr> <tr> <td>country</td> <td>名</td> <td>国</td> <td></td> </tr> <tr> <td>countries</td> <td>名</td> <td>国々</td> <td>複数形</td> </tr> <tr> <td>many</td> <td>形</td> <td>たくさんの</td> <td></td> </tr> <tr> <td>well</td> <td>間</td> <td>ええと、 うーん</td> <td></td> </tr> <tr> <td>熟語 a lot of</td> <td></td> <td>たくさんの</td> <td>=many</td> </tr> </tbody> </table> <p>②基本文・黒板の書き写し</p> <p><u>How many CDs</u> do you have ? 何枚の CD を持っていますか。</p> <p>I have <u>eighty CDs</u>. 私は 80 枚の CD を持っています。</p>	単語	品詞	意味	使い方の注意など	world	名	世界		so	接	それで、 だから		CD(s)	名	コンパクトディスク		lot	名	たくさん	a lot of ~	country	名	国		countries	名	国々	複数形	many	形	たくさんの		well	間	ええと、 うーん		熟語 a lot of		たくさんの	=many	<p>③教科書本文の写し</p> <p>Ms. Brown : I like <u>this music</u>. この音楽</p> <p>Ichiro : Oh, <u>do you like Mexican music</u> ? ～が好きですか</p> <p>Ms. Brown : Yes. I like <u>world music</u>. 世界の音楽 country の複数形</p> <p><u>So</u> I have CDs <u>from a lot of countries</u>. たくさんの<u>国々</u>から</p> <p>Ichiro : <u>How many CDs</u> do you have ? 何枚の CD を</p> <p>Ms. Brown : <u>Well, about eighty</u>. えーと およそ</p> <p>Ichiro : Wow!</p>
単語	品詞	意味	使い方の注意など																																						
world	名	世界																																							
so	接	それで、 だから																																							
CD(s)	名	コンパクトディスク																																							
lot	名	たくさん	a lot of ~																																						
country	名	国																																							
countries	名	国々	複数形																																						
many	形	たくさんの																																							
well	間	ええと、 うーん																																							
熟語 a lot of		たくさんの	=many																																						

① 予習で：単語調べ

- ・ 新出単語を写し、教科書の巻末を利用して意味を調べる（品詞と意味）。
- ・ 授業の説明で覚えておきたいことを、「使い方の注意など」欄にメモする。

② 授業で：基本文・黒板の書き写し

- ・ 黒板に書かれたことを写す。
手早く書き写す。先生の説明を聞くときは、いったん書くのをやめ、集中して聞くようにする。
- ・ 大切なところは色ペンを使い、後で見たときに分かるように工夫して書く。

③ 予習で：教科書の本文写し

- ・ 教科書の本文を写しておく。
- ・ 授業の説明の中で、大切なところは下線を引く等して、ポイントが分かるようにする。

(2) 復習ノート（Bノート）

- 市販の英語ノートを用意する。（1年生は12行程度、2・3年生には15行程度がお勧め）
- 宿題等の課題を復習ノートにやる場合は、どのページに何を書くか、何ページやるかについて先生から指示がある。
- 本文写し練習や単語練習・意味、ワークの英文を書くなど、工夫して自主勉強を進める。
機械的に書くだけでは力にはなりません。基本文を基に自分で考えた英文をどんどん書いて理解を深め表現力をつけることが大切です。

英語の学習内容

～中学校3年間でできるようになること～

1年生

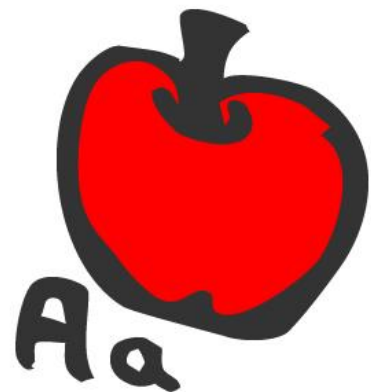
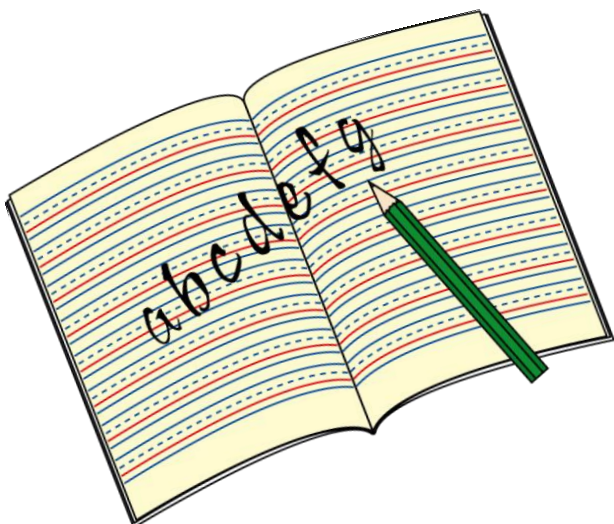
- ・ 英語でのあいさつや、クラスルームイングリッシュ（教室で使う英語表現）
- ・ 基本的な単語（身の回りのもの、動物、食べ物、数字、曜日、月、時間、天気、色）
- ・ 自分や友だちの名前や出身地を言ったり、たずねたりする。
- ・ ものや場所を指して、説明する。
- ・ 自分（相手、友だち）の好きなスポーツや教科、日常生活の行動や動作を説明したり、たずねたりする。
- ・ ものの様子や、自分（友だち）の体調を言い表す。
- ・ 食べ物や飲み物を注文したり、所有物の数を説明したりする。
- ・ ある提案をして相手を誘ったり、相手に指示を出したりする。
- ・ 現在の時刻をたずねたり、ある行動をする時刻や時間帯を説明したりする。
- ・ もののある場所やものの所有者をたずねたり、それに答えたりする。
- ・ 今行われている動作や情景を説明したり、たずねたりする。
- ・ 自分（友だち）ができることやできないことを説明したり、たずねたりする。
- ・ 過去に起きた出来事や、とった行動について説明したり、たずねたりする。

2年生

- ・ 人やものの過去の状態を説明する。
- ・ 未来の予定や計画を説明したり、たずねたりする。
- ・ ものや人物の呼び名や、見かけの様子を説明する。
- ・ 許可や依頼をしたり、電話で用件を説明したりする。
- ・ したいこと、食べたいもの、行動の目的などを説明する。
- ・ 注意すべきこと、禁止事項、心得などを相手に伝える。
- ・ 行動や出来事が起きた理由や場面を説明する。
- ・ バスでの行き方をたずねたり、教えたりする。
- ・ ある場所に存在するものや人物を説明する。
- ・ 2つ以上のものや人物を比べて、様子や状態を説明したり、自分の好みを述べたりする。
- ・ 希望の色や大きさを伝えながら、買い物の対話をする。

3年生

- ・ 行われる行事やイベント、使われる道具や技などを説明する。
- ・ ずっと続けてきていることや、今まで体験したこと、たった今終了した仕事を説明したり、たずねたりする。
- ・ 食べ物や飲み物を勧めたり、それに応じたりする。
- ・ 乗り物での行き方や料理や競技の方法などを説明したり、たずねたりする。
- ・ あるテーマについて、理由を添えて、賛成や反対の意見を述べる。
- ・ 分かりやすい説明を加えて、有名な人物や本、映画、漫画などを紹介する。
- ・ やや長い英文を読んで、話のあらすじをつかんだり、筆者の考えや主張を読み取ったりする。



伸ばす4つの力

『聞くこと』

- ・ アルファベットや単語の発音を聞き分ける。
- ・ 簡単な指示や質問を聞き取る。



- ・ キーワードとなる単語や英文を聞き取る。
- ・ 話の順序や、場面の変化を理解する。



- ・ まとまった英文を聞き取り、話し手の考えや気持ちをとらえる。

『話すこと』

- ・ あいさつをする。
- ・ 簡単な質問に答える。



- ・ Show and Tell (物や人物を紹介)
- ・ ペアで対話する。



- ・ テーマを決めて、スピーチをする。
- ・ ある議題について、根拠を示して討論する。

『書くこと』

- ・ 好きな食べ物やスポーツなどについて自己紹介文を書く。



- ・ 特徴や魅力が伝わる紹介文を書く。
- ・ 外国人に対し、親切的な日本ガイドブックを作る。



- ・ 伝えたいことや主張したいことについて、スピーチ原稿を書く。
- ・ 英文を読んで、その感想や意見を書く。

『読むこと』

- ・ 対話文や短い文章から「何」「だれ」「どこ」「いつ」などを読み取る。



- ・ 出来事とその原因、登場人物の行動とその理由など、少し詳しい内容を読み取る。



- ・ まとまった英文を読み、書き手の心情や考えを理解する。
- ・ 未習の語句があっても、その前後の文脈から予想し、文章の概要をつかむ。

